

エコアクション 21

2020年度 環境経営レポート



[対象 期間]

自 2020年 4月 1日
至 2021年 3月 31日

永和工業 株式会社

作成日 2021年 7月 2日

— 目 次 —

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 及び 代表者名
- (2) 所在地
- (3) 事業の概要
- (4) 事業の規模
- (5) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

- (1) 全事業所、組織の全事業活動を 対象とする
- (2) 役割・責任・権限

3. 環境経営方針

4. 環境経営目標

5. 環境経営計画

6. 環境経営目標の実績

7. 環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果と その評価（実績には二酸化炭素排出量を含む）並びに 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 評価の結果 並びに 違反・訴訟などの有無

9. 代表者による全体評価 と 見直しの結果

1. 組織の概要

(1) 事業所名 及び 代表者名

事業所名 えい わ こう ぎ ょ う 永和工業株式会社

代表者名 は ら だ も と こ 代表取締役 原田 素子

(2) 所在地

本社 き た き ゅ う し ゅ う し も じ く ま つ ば ら 2 - 3 - 5 北九州市門司区松原 二丁目3番5号

小倉第一事業所 北九州市小倉北区中島 二丁目1番1号

小倉第二事業所 北九州市小倉南区朽網東 五丁目1番1号

黒崎事業所 北九州市八幡西区黒崎城石 1番1号

(3) 事業の概要

建設業 ① 管工事業
② 機械器具設置工事業
③ 消防施設工事業

営業品目 * 各種プラントの配管工事
* 機械器具設置・改造工事 及び メンテナンス
* 各種ライニング工事
* 金属 及び 樹脂製品の製作加工
* 上記に付帯関連する工事の 設計施工

(4) 事業の規模

	2018年度	2019年度	2020年度
売上高	669,064 千円	471,483 千円	597,318 千円
従業員数	30 人	30 人	30 人
本社事務所床面積	226 m ²	226 m ²	226 m ²
本社工場建築面積	625 m ²	625 m ²	625 m ²
本社敷地面積	3,014 m ²	3,014 m ²	3,014 m ²

(5) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

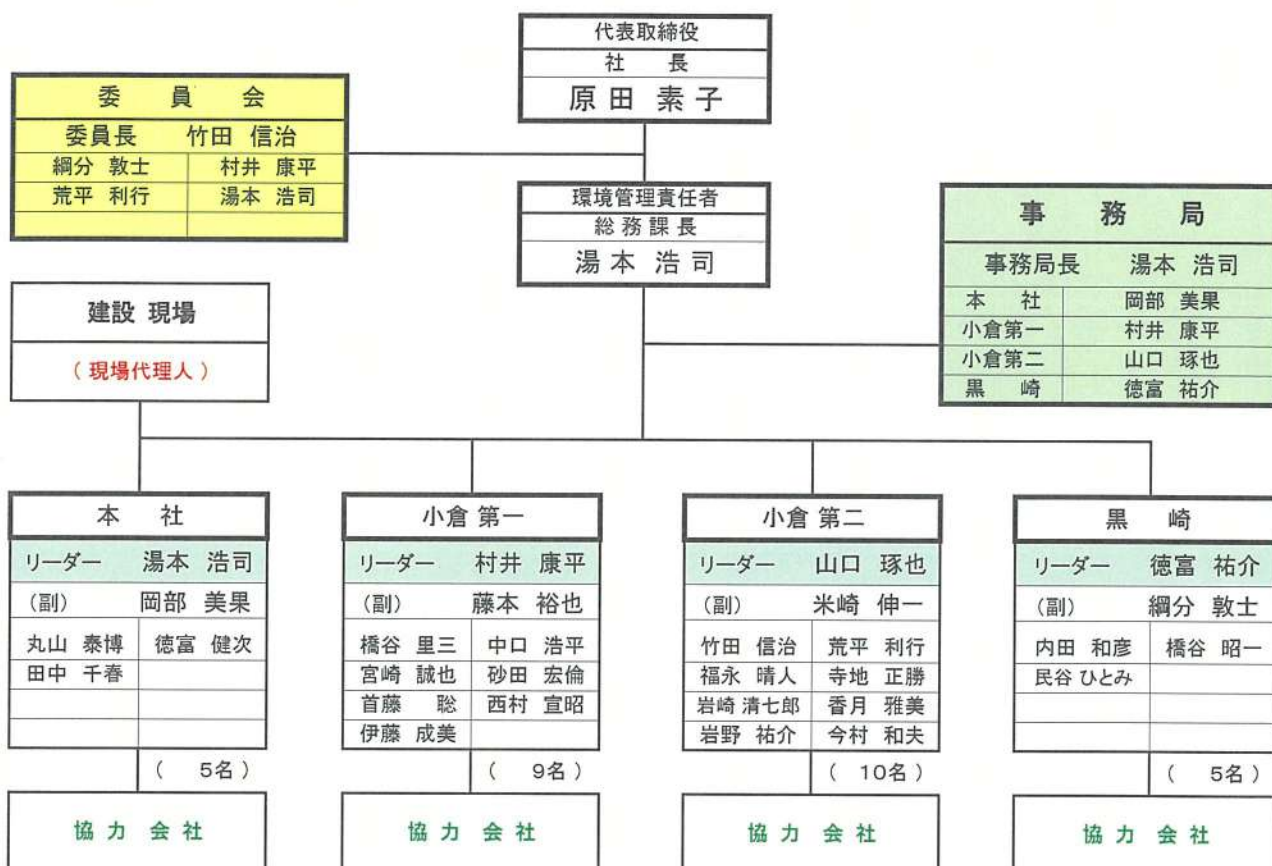
			[連絡先]	[FAX]
環境管理責任者	総務 課長	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699
(担当 連絡先)	総 務 課	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

2020年 4月 1日

(1) 全事業所、組織の全事業活動を対象とする

永和工業株式会社 エコアクション21 実施体制



(2) 役割・責任・権限

[役割分担表]

氏 名	役職 (所属)	役割・責任・権限・使命
原田 素子	代表取締役	全社活動の統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するためのあらゆる準備と活動全般の評価や見直しを行う。
湯本 浩司	総務 課長	活動全体の把握、環境経営システムを構築・運用し、その状況を社長に報告する。
(竹田 信治)	委 員 会	半年に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を審議する。必要によっては、随時開催する。
(湯本 浩司)	事 務 局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 3ヶ月に1回事業所リーダー会を開催し、実施計画についての対策や効果等の達成状況や目標に対する取り組み実施状況などについて、審議する。
湯本 浩司	(本 社)	省資源活動 環境負荷の少ない物品を優先的に購入する。
村井 康平	(小倉 第一)	産廃物の削減 資源ゴミの分別を徹底し、廃棄物の減量に努める。
山口 琢也	(小倉 第二)	省エネ活動 節水・節電に努めると共に設備・車両・機器等の環境商品化を推進して行く。
徳富 祐介	(黒 崎)	温暖化防止 人的・金銭的支援を含めた緑化活動推進により、地域貢献を行う。エコドライブの推進
現場代理人	管轄 事業所	建設現場のエネルギー削減・リサイクル率管理・環境景観管理

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

I. 基本理念

環境保全を事業活動の中での重要課題に位置づけ、各利害関係者とコミュニケーションをとりながら、環境に資するあらゆる改善を継続的に図って行く。

II. 行動指針

1. 環境負荷の低減

(1) 省資源活動

- ① 環境負荷の少ない物品を優先的に購入する。
- ② 再生紙の利用や両面印刷等を推進し、用紙の削減や有効活用を行う。

(2) 省エネ活動

- ① 節水や節電に努める。
- ② 設備・車両・機器等についての環境商品化を推進して行く。

(3) 廃棄物の削減

- ① 無駄な消費を削減し、廃棄物の削減に努める。
- ② 資源ゴミの分別を徹底し、廃棄物の減量に努める。

(4) 温暖化の防止

- ① エコドライブを推進する。
- ② 原材料や副資材のグリーン化・グリーン購入に取り組む等、緑化活動を推進することによって地域貢献を果たす。

2. 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善

3. 環境教育の充実と環境の保護

4. 環境関連法規の遵守

5. 業務リスクを回避し、経営効率の向上を図る

(1) 不良品や手待ち・出戻りの撲滅

- ① 作業前の施工打合せをしっかりと行い、不良品の発生を防止する。
- ② 出発前には、材料や道具などの積荷を確認し、手待ちや出戻りなど無くす。

(2) 無事故無災害の達成

- ① 始業前には、必ずKYを実施し、作業の安全を保持する。
- ② 現場・作業場の安全パトロールを実施し、不安全行動や不安全設備を改善する。

環境経営の継続的改善を誓約します。

制定日 2011年 12月 28日
改定日 2019年 4月 1日

永和工業株式会社
代表取締役
原田 素子

4. 環境経営目標

2020年 4月 1日

2020年度 及び 中長期 環境経営目標

2018年度(基準年度)の実績を 踏まえ、各年度の目標を 設定しております。

環 境 目 標			単 位	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 目標	2021年度 目標	2022年度 目標
				(基準 年度)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)
1	二酸化炭素 排出量		kg-CO2	36,584 kg-CO2 (100.0 %)	38,356 kg-CO2 (104.8 %)	35,294 kg-CO2 (96.5 %)	34,749 kg-CO2 (95.0 %)	34,072 kg-CO2 (93.1 %)
1-1	電 気 使用量		KWh	23,951 KWh (100.0 %)	26,317 KWh (109.9 %)	23,500 KWh (98.1 %)	23,000 KWh (96.0 %)	22,500 KWh (93.9 %)
1-2	ガソリン 使用量		ℓ	7,982 ℓ (100.0 %)	7,767 ℓ (97.3 %)	7,600 ℓ (95.2 %)	7,550 ℓ (94.6 %)	7,500 ℓ (94.0 %)
1-3	軽 油 使用量		ℓ	1,496 ℓ (100.0 %)	1,863 ℓ (124.5 %)	1,450 ℓ (96.9 %)	1,400 ℓ (93.6 %)	1,300 ℓ (86.9 %)
1-4	L P G 使用量		kg	46.00 kg (100.0 %)	22.00 kg (47.8 %)	40.00 kg (87.0 %)	38.00 kg (82.6 %)	36.00 kg (78.3 %)
2-1	廃 棄 物 排出量		t	116.59 t (100.0 %)	67.61 t (58.0 %)	110.00 t (94.3 %)	108.00 t (92.6 %)	106.00 t (90.9 %)
2-2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 (循環資源 t)	43.5 % (50.70 t)	44.2 % (29.85 t)	44.4 % (48.80 t)	44.9 % (48.50 t)	45.3 % (48.00 t)
3	総排水量 (給水量)		m ³	78.0 m ³ (100.0 %)	76.0 m ³ (97.4 %)	74.0 m ³ (94.9 %)	73.0 m ³ (93.6 %)	72.0 m ³ (92.3 %)
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達 成 率	0 件 (0.0 %)	0 件 (0.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)
		エコ車対応	省エネ車／車両総数 (%) (全車両 16 台) 普 及 率	13台 ／ 16台 (81.3 %)	14台 ／ 16台 (87.5 %)	15 台 ／ 16台 (93.8 %)	16 台 ／ 16台 (100.0 %)	17 台 ／ 17台 (100.0 %)
5	会社周辺の清掃 (※ 100% 以上を 達成目標とする)		実施 回数 (達 成 率)	32 回 ／ 年 (100.0 %)	34回 ／ 年 (106.3 %)	35 回 ／ 年 (109.4 %)	36 回 ／ 年 (112.5 %)	37 回 ／ 年 (115.6 %)
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を 達成目標とする)		事故災害 件数 (達 成 率)	—	—	0 件 ／ 年 (100.0 %)	0 件 ／ 年 (100.0 %)	0 件 ／ 年 (100.0 %)

備 考 1 : 電気(1-1)・水(3)・周辺の清掃(5)は 本社のみ、LPG(1-4)は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2014年度 九州電力の 0.584 kg-co2/kwhを 使用している。

2 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。

3 : 化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

5. 環境経営計画

2020年 4月 1日

2020年度 環境経営計画

2020年度 環境経営計画の項目

(1) 二酸化炭素 総排出量削減

[illegible]

(2) 廃棄物 排出量の削減と建設資材のリサイクル率の向上

[illegible]

(3) 総排水量の削減

[illegible]

(4) グリーン購入の推進

[illegible]

(5) 会社周辺の清掃等

[illegible]

(6) 無事故無災害の達成

[illegible]

6. 環境経営目標の実績

2021年 6月18日

2020年度 環境経営目標の実績（12／12）

2018年度（基準年度）実績を 踏まえ、2020年度の目標を 設定しております。

環 境 目 標			単 位	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績	目標対比率	評 価	コ メ ント
				(基準 年度)	(基準年度実績 対比率)	(目標達成 基準)	(基準年度実績 対比率)			
1	二酸化炭素 排出量		kg-CO2	36,584 kg-CO2 (100.0 %)	38,356 kg-CO2 (104.8 %)	35,294 kg-CO2 (100.0 %)	40,205 kg-CO2 (109.9 %)	113.9%	×	売上の大幅な増加に伴い、化石燃料の使用が増えて、増加した。
1-1	電 気 使用量		KWh	23,951 KWh (100.0 %)	26,317 KWh (109.9 %)	23,500 KWh (100.0 %)	28,049 KWh (117.1 %)	119.4%	×	内作の増加により、工場の稼働率が上がり電気使用量も増加した。
1-2	ガソリン 使用量		ℓ	7,982 ℓ (100.0 %)	7,767 ℓ (97.3 %)	7,600 ℓ (100.0 %)	8,171 ℓ (97.7 %)	107.5%	×	材料や製品の運搬が、著しく増加したため、GSの使用も増えた。
1-3	軽 油 使用量		ℓ	1,496 ℓ (100.0 %)	1,863 ℓ (124.5 %)	1,450 ℓ (100.0 %)	1,868 ℓ (80.1 %)	128.8%	×	2tトラックや発電機の需要が増え、軽油の使用量も増加した。
1-4	L P G 使用量		kg	46.00 kg (100.0 %)	22.00 kg (47.8 %)	40.00 kg (100.0 %)	16.20 kg (284.0 %)	40.5%	○	LPGの使用機会が減り、その使用量も減った。
2-1	廃 棄 物 排出量		t	116.59 t (100.0 %)	67.61 t (58.0 %)	110.00 t (100.0 %)	72.63 t (62.3 %)	66.0%	○	解体工事が少なかったため、廃棄物の搬出量が、減少した。
2-2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 (循環資源 t)	43.49 % (50.70 t)	44.2 % (29.85 t)	43.4 % (48.80 t)	34.1 % (24.75 t)	78.6%	×	分別処理を徹底したが、リサイクルできる廃棄物が、少なかった。
3	総排水量 (給水量)		m³	78.0 m³ (100.0 %)	76.0 m³ (97.4 %)	74.0 m³ (100.0 %)	108.0 m³ (138.5 %)	145.9%	×	工場稼働率が大幅に上り、人員が増加し、水の使用量も増えた。
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達 成 率	0 件 (0.0 %)	0 件 (0.0 %)	1 件 (100.0 %)	0 件 (0.0 %)	0.0%	×	適当な再生品が、見つからない。
		エコ車対応	省エネ車／車両総数 (%) (全車両 16 台) 普 及 率	13台／16台 (81.3 %)	14 台／16台 (87.5 %)	15 台／16台 (93.8 %)	15 台／16台 (93.8 %)	100.0%	○	EC車代替えを 年々促進させた。
5	会社周辺の清掃 (※ 100% 以上を 達成目標とする)		実施 回数 (達 成 率)	32回／年 (100.0 %)	34 回／年 (106.3 %)	35 回／年 (100.0 %)	35 回／年 (109.4 %)	100.0%	○	定期的に5S活動を実施している。
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を 達成目標とする)		事故災害 件数 (達 成 率)	—	1 件／年 (0.0 %)	0 件／年 (100.0 %)	0 件／年 (0.0 %)	100.0%	○	現場巡視を徹底し、事故はない。

- 備 考 1 : 電気（1-1）・水（3）・周辺の清掃（5）は 本社のみ、LPG（1-4）は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2014年度 九州電力の 0.584 kg-CO2/kWhを 使用している。
- 2 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。
- 3 : 化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

7. 環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果とその評価（実績には二酸化炭素排出量を含む）

並びに 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

2021年 6月21日

環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 並びに 次年度の環境経営計画

(1) 二酸化炭素 総排出量削減

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	電気 使用量の削減 (1) 事務所								
		室温は、適切に保たれている。	節電活動を 継続して行く。	室温は、適切に保たれている。	節電活動を 継続して行く。	室温は、適切に保たれている。	節電活動を 継続して行く。	室温は、適切に保たれている。	節電活動を 継続して行く。
		エアコンなど適切に使用されている。		エアコンなど適切に使用されている。		エアコンなど適切に使用されている。		エアコンなど適切に使用されている。	
		未使用の個室は、消灯されている。		昼休みは、原則、消灯している。		昼休みは、原則、消灯している。		昼休みは、原則、消灯している。	
		残業は、極力、控えている。							
	(2) 工場・加工場								
		未使用の電動工具などの元電源を	節電活動を継続して行く。	未使用の電動工具などの元電源を	節電活動を 継続して行く。	未使用の電動工具などの元電源を	節電活動を 継続して行く。	未使用の電動工具などの元電源を	節電活動を 継続して行く。
		切っている。	協力会社にも徹底する。	切っている。	協力会社にも徹底する。	切っている。	協力会社にも徹底する。	切っている。	協力会社にも徹底する。
		昼休みは、原則、消灯している。	LED設備の導入を計画する。	昼休みは、原則、消灯している。		昼休みは、原則、消灯している。		昼休みは、原則、している。	
		ピーク電費を考えた作業をしている。							
2	ガソリン使用量の削減	エコ運転を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。	出発前に積荷点検を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。	出発前に積荷点検を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。	出発前に積荷点検を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。
		整備点検を確実にやっている。		整備点検を確実にやっている。		整備点検を確実にやっている。		整備点検を確実にやっている。	
3	軽油 使用量の削減			出発前に積荷点検を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。	出発前に積荷点検を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。	出発前に積荷点検を行っている。	エコ運転や点検など継続して行く。
				整備点検を確実にやっている。	エコ機器を継続して使用する。	整備点検を確実にやっている。	エコ機器を継続して使用する。	整備点検を確実にやっている。	エコ機器を継続して使用する。
				発電機は、エコ対応機を使用した。		発電機は、エコ対応機を使用した。		発電機は、エコ対応機を使用した。	
4	LPG 使用量の削減	給湯器は、種火を切っている。	こまめな節約を 継続する。					給湯器は、種火を切っている。	こまめな節約を 継続する。
				—	—	—	—	LPG使用の仕事が減少したので、	
								使用量も大幅に減っている。	

(2) 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	廃棄物 排出量の削減	誤作防止の打合せを行っている。	慎重な作業で、不良品を出さない。	誤作防止の打合せを行っている。	慎重な作業で、不良品を出さない。	誤作防止の打合せを行っている。	慎重な作業で、不良品を出さない。	誤作防止の打合せを行っている。	慎重な作業で、不良品を出さない。
		在庫買いなどない。	廃棄物の分別処理を 継続する。	在庫買いなどない。	廃棄物の分別処理を 継続する。	在庫買いなどない。	廃棄物の分別処理を 継続する。	在庫買いなどない。	廃棄物の分別処理を 継続する。
		残材・端材の活用に努めている。		残材・端材の活用に努めている。		残材・端材の活用に努めている。		残材・端材の活用に努めている。	
2	建設資材リサイクル 率の向上	廃棄物は、分別を行っている。	廃材の排出管理を継続する	廃棄物は、分別を行っている。	廃材の排出管理を継続する	廃棄物は、分別を行っている。	廃材の排出管理を継続する	廃棄物は、分別を行っている。	廃材の排出管理を継続する

(3) 総排水量の削減

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	水 使用量の削減	台所の節水を適切に行っている。	みなで、節水の取組みを継続する。	台所の節水を適切に行っている。	みなで、節水の取組みを継続する。	台所の節水を適切に行っている。	みなで、節水の取組みを継続する。	台所の節水を適切に行っている。	みなで、節水の取組みを継続する。
		みなに節水意識が、浸透している。	樹木の散水は、貯めた雨水を使用。	みなに節水意識が、浸透している。	放水による洗車は、しない。	みなに節水意識が、浸透している。	放水による洗車は、しない。	みなに節水意識が、浸透している。	放水による洗車は、しない。

(4) グリーン購入の推進

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	エコ用品の活用	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の検討を続ける。
2	省エネ車輛の導入	エコ車の代替え導入を 推進している。	今後もエコ車代替え導入を継続する。	エコ車の代替え導入を 推進している。	今後もエコ車代替え導入を継続する。	エコ車を代替え導入した。	今後もエコ車代替え導入を継続する。	エコ車の代替え導入を 推進している。	今後もエコ車代替え導入を継続する。

(5) 会社周辺の清掃等

	活動項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	会社周辺 並びに 事務所・工場・加工場 などの5S活動推進	毎週の活動をシッカリ行っている。	活動を継続的に行う。	日々の活動をシッカリ行っている。	日々の活動を継続的に行う。	毎週の活動をシッカリ行っている。	毎週の活動を継続的に行う。	月々の活動をシッカリ行っている。	月次の活動を継続的に行う。
		除草など適切に行われ、会社周辺	責任者は、実施状況を掲示する。	事務所や加工場は、いつも綺麗だ。	担当責任者は、随時点検する。	事務所や加工場は、いつも綺麗だ。	担当責任者は、随時点検する。	倉庫は 片付いており、作業効率も	担当責任者は、随時点検する。
		は、綺麗になっている。						向上した。	

(6) 無事故無災害の達成

	活動項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	安全パトロールの実施	定時の安全巡視を行っている。	パトロール活動を継続的に行う。	定時の安全巡視を行っている。		定時の安全巡視を行っている。	パトロール活動を継続的に行う。	安全パトロールが、実施されている。	パトロール活動を継続的に行う。
				協力会社も参加している。		協力会社も参加している。	危険作業に監視人を配置すると	協力会社も参加している。	
							共に注意喚起の表示なども行う。		
2	始業前のKY実施	協力会社も交えて、日々のKY活動を	日々の活動を継続的に行う。	協力会社も交えて、日々のKY活動を	日々の活動を継続的に行う。	協力会社も交えて、日々のKY活動を	日々の活動を継続的に行う。	協力会社も交えて、日々のKY活動を	日々の活動を継続的に行う。
		行なっている。		行なっている。		行なっている。		行なっている。	
						入替者の安全教育強化を図っている。			
3	安全衛生活動の 周知と推進	安全衛生委員会での決議事項を	安全衛生活動を継続的に行う。	安全衛生委員会での決議事項を	安全衛生活動を継続的に行う。	安全衛生委員会での決議事項を	安全衛生活動を継続的に行う。	安全衛生委員会での決議事項を	安全衛生活動を継続的に行う。
		社員に説明している。	協力会社にも積極的参加を促す。	社員に説明している。	協力会社にも積極的参加を促す。	社員に説明している。	協力会社にも積極的参加を促す。	社員に説明している。	協力会社にも積極的参加を促す。
		インフル予防接種を推進している。		インフル予防接種を推進している。		インフル予防接種を推進している。		インフル予防接種を推進している。	
		コロナ対策で、手洗・消毒・マスク		コロナ対策で、手洗・消毒・マスク		コロナ対策で、手洗・消毒・マスク		コロナ対策で、手洗・消毒・マスク	
		着用や検温出社など 実施している。		着用や検温出社など 実施している。		着用や検温出社など 実施している。		着用や検温出社など 実施している。	

2021年度 及び 中長期 環境経営目標

2020年度(基準年度)の実績を 踏まえ、各年度の目標を 設定しております。

環 境 目 標			単 位	2020年度 実績	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標
				(基準 年度)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)
1	二酸化炭素 排出量		kg－CO2	40,205 kg－CO2 (100.0 %)	21,242 kg－CO2 (52.8 %)	20,862 kg－CO2 (51.9 %)	20,367 kg－CO2 (50.7 %)	20,184 kg－CO2 (50.2 %)
1－1	電 気 使用量		KWh	28,049 KWh (100.0 %)	23,000 KWh (82.0 %)	22,500 KWh (80.2 %)	22,000 KWh (78.4 %)	21,800 KWh (77.7 %)
1－2	ガソリン 使用量		ℓ	8,171 ℓ (100.0 %)	7,550 ℓ (92.4 %)	7,500 ℓ (91.8 %)	7,350 ℓ (90.0 %)	7,300 ℓ (89.3 %)
1－3	軽 油 使用量		ℓ	1,868 ℓ (100.0 %)	1,400 ℓ (74.9 %)	1,300 ℓ (69.6 %)	1,250 ℓ (66.9 %)	1,230 ℓ (65.8 %)
1－4	L P G 使用量		kg	16.20 kg (100.0 %)	38.00 kg (234.6 %)	36.00 kg (222.2 %)	30.00 kg (185.2 %)	25.00 kg (154.3 %)
2－1	廃 棄 物 排出量		t	72.63 t (100.0 %)	108.00 t (148.7 %)	106.00 t (145.9 %)	103.00 t (141.8 %)	100.00 t (137.7 %)
2－2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 (循環資源 t)	34.1 % (24.75 t)	44.9 % (48.50 t)	45.3 % (48.00 t)	45.6 % (47.00 t)	46.0 % (46.00 t)
3	総排水量 (給水量)		m ³	108.0 m ³ (100.0 %)	73.0 m ³ (67.6 %)	72.0 m ³ (66.7 %)	72.0 m ³ (66.7 %)	71.0 m ³ (65.7 %)
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達 成 率	0 件 (0.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)
		エコ車対応	省エネ車／車両総数 (%) (全車両 16 台) 普 及 率	15台 ／ 16台 (93.8 %)	16 台 ／ 16台 (100.0 %)	17 台 ／ 17台 (100.0 %)	17 台 ／ 17台 (100.0 %)	17 台 ／ 17台 (100.0 %)
5	会社周辺の清掃 (※ 100% 以上を 達成目標とする)		実施 回数 (達 成 率)	35回 ／ 年 (100.0 %)	36 回 ／ 年 (102.9 %)	37 回 ／ 年 (105.7 %)	38 回 ／ 年 (108.6 %)	39 回 ／ 年 (111.4 %)
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を 達成目標とする)		事故災害 件数 (達 成 率)	0 件 ／ 年 (100.0 %)	0 件 ／ 年 (100.0 %)	0 件 ／ 年 (100.0 %)	0 件 ／ 年 (100.0 %)	0 件 ／ 年 (100.0 %)

- 備 考 1 : 電気(1-1)・水(3)・周辺の清掃(5)は 本社のみ、LPG(1-4)は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度(※) ウェスト電力の 0.00 kg-co2/kwhを 使用し、2021年度の目標 及び 実績を 計算している。
- 2 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。
- 3 : 化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 結果の評価 並びに 違反・訴訟などの有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。又、関係機関からの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

環境関連法規等の取りまとめ 及び 遵守状況のチェック結果

法 律 名 等	法 令 条 項	事業・作業	適用 条件	要求 事項	要 求 内 容	定期的確認	主観 部門
						遵守条件・判定	確 認 日
* 廃棄物処理法	12条 1項 同令 6条、6条の5	収集運搬業務	自ら収集運搬を行う場合		○ 運搬車両への表示 ○ 運搬内容の記載と常時携帯	○ ○	総務課 2021年 3月 31日
	12条 2項～9項 同令 6条の2の4・6 同規則 8条の2～4	産業廃棄物の 委託処理	廃プラ・木屑・紙屑・瓦礫 ゴム屑・コン殻・金属屑	委託先の確認	○ 収集運搬 及び 処分業者の許可証の確認 ○ 中間処理施設等の現地確認	○ ○	総務課 2021年 3月 31日
	8条の4の2・3 8条の19～30 同令 27条 同規則 8条の26・27			委託契約の締結・保存	○ 委託契約の内容確認 ○ 契約書類の保存（5年間）	○ ○	総務課 2021年 3月 31日
	30、30の2 同規則 8条の14～16 16の2、16の3 10条の8、21 法12条の3項の6 規則 8条の27			マニフェスト伝票の交付 回収・照合 及び 保管	○ 適合マニフェストの使用 ○ マニフェストの回収日の管理（A票で照合チェック） ○ マニフェスト・委託契約書の5年間 保存 ○ 未回収戻票の報告 ○ 管理票交付等の状況報告	○ ○ ○ ○ ○	総務課 2021年 3月 31日
	12条 2項 同規則 8条	産業廃棄物の処理	現場保管・仮置き場	適正な保管・管理	○ 野外焼却の禁止 ○ 積上・雨・風・悪臭に対する養生、保管場所掲示板の設置	○ ○	総務課 2021年 3月 31日
* フロン排出抑制法 （改正フロン法）	法 第 5条 法 第16条 経済産業省/環境省 告示：第13号		平成27年4月1日 施行 業務用エアコン、冷凍冷蔵 機器の管理者（使用者）	フロンガス管理の適正化 簡易点検を 3ヶ月に1回 以上実施	○ 異常音の確認 ○ 外観損傷・摩耗・腐食 及び 錆、その他の劣化 ○ 油漏れの確認 ○ 熱交換器への霜付着の確認	○ ○ ○ ○	総務課 2021年 3月 31日

9. 代表者による全体評価 と 見直しの結果

2020年度は、売上低迷を予想しておりましたが、三菱ケミカル構内のプラント更新などもあって、売上は前年比 約120% となりました。結果、化石燃料の消費量も増加し、CO2の排出量は増加に転じてしまいました。環境経営計画(活動)は着実に実行していましたが、化石燃料の使用量の伸びが、より大きかったため、CO2の排出量は 前年比 約14% 増となり、今期は目標を 達成することができませんでした。

コロナ禍で、今期の売上は減少が予想されるため、ある程度の化石燃料やCO2排出の減少は見込まれますが、数値だけに囚われることなく、日々の活動を みんなで着実に実行して行きたいと思っております。数値目標の達成は 大切ですが、建設業界では、景気やお得意先の環境などによって、業績が大きく左右されることが多いので、目先の数値だけに 囚われていては、あらゆる取組みや活動を 継続して行くことは、困難になってきます。

2020年度の数値は、あまり芳しいものとは 言えませんでした。廃棄物の分別や始業前の打合せ等の面では充実しており 効果も見えています。今期、無事故無災害が達成できたことは、エコアクション21の活動を 継続していることで、社員の一人ひとりが、自覚を持って行動するようになっていることが、大きな要因のひとつであるとも思っています。

これからも 職場環境に配慮しながら、経営にもいい影響を 与えられるような活動計画を シッカリとたて、全社一丸となって、環境経営に取り組んで行きましょう。

以 上